

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	90
担当教員	前田 朱美		
授業形態	実 習	教 室	第1実技室
授業目的	本授業は、基本的な刺鍼の手順、安全な鍼操作を理解、習得することが目的である。また、鍼灸臨床におけるステンレス鍼と銀鍼の使用方法を学び習得することで基礎を構築する		
教科書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第2版、医道の日本社、1992年		

具体的な到達目標	
目標1	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髪・爪）を整えることができる
目標2	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確にできること
目標3	安全に刺鍼することができるように一連の手順を正確にできること
目標4	刺鍼に関わる動作（揉捻法・押手・切皮・刺入・抜鍼）が適切に行えること
目標5	指定された角度・深度に刺鍼することができること

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	55%（試験合格を以って55%を加算する）	55%（試験合格を以って55%を加算する）	
平常点	35% <small>算出方法</small> 「その他の事項」に記載	35% <small>算出方法</small> 「その他の事項」に記載	
出席点	10% <small>算出方法</small> 「その他の事項」に記載	10% <small>算出方法</small> 「その他の事項」に記載	
その他	<small>算出方法</small>	<small>算出方法</small>	
試験日	通学再開後に設定	通学再開後に設定	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	はり師、きゅう師免許を有する。往診にて3年、教員養成科附属治療所にて2年、本校附属治療所にて5年の実務経験あり。現在は鍼灸院に勤務している。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に刺鍼するための基礎実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション [シラバスの確認・道具の確認・道具の準備・手洗いについて]	
2	両手挿管、片手挿管の方法、刺鍼練習台を用いて片手挿管の練習	
3	刺鍼の手順 [揉捻法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼]	
4	反復練習 (刺鍼の手順 [揉捻法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼])	
5	直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について	

- 6 反復練習（直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について）
- 7 直刺での刺鍼、旋撚刺法
- 8 反復練習（直刺での刺鍼、旋撚刺法）
- 9 直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋撚刺法
- 10 反復練習（直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋撚刺法）
- 11 人体への刺鍼手順、消毒手順、十七手技〔副刺激術、置鍼術、示指打法、刺鍼転向法〕
- 12 自身の体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔前回授業内容〕
- 13 自身の体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔前回授業内容〕
- 14 自身の体への刺鍼〔下腿〕、斜刺での刺鍼
- 15 自身の体への刺鍼〔下腿〕、横刺での刺鍼
- 16 片手挿管、刺鍼の手順、消毒手順の確認
- 17 自身の身体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔斜刺、横刺〕
- 18 試験
- 19 試験
- 20 試験結果を踏まえての基礎実技、十七手技〔単刺・雀啄術〕
- 21 他者の体への刺鍼〔下腿〕、十七手技〔第20回の復習〕
- 22 他者の体への刺鍼〔下腿〕、十七手技〔間歇術〕
- 23 他者の体への刺鍼〔腰部〕、十七手技〔屋漏術〕
- 24 他者の体への刺鍼〔腰部〕、十七手技〔振せん術〕
- 25 他者の体への刺鍼〔上・中背部〕、十七手技〔旋撚術〕
- 26 他者の体への刺鍼〔上・中背部〕、十七手技〔回旋術〕
- 27 他者の体への刺鍼〔上肢〕、十七手技〔随鍼術〕
- 28 他者の体への刺鍼〔上肢〕、十七手技〔内調術〕
- 29 他者の体への刺鍼〔腹部〕、十七手技〔細指術〕
- 30 他者の体への刺鍼〔頸部〕、十七手技〔管散術〕
- 31 他者の体への刺鍼〔頸部〕、十七手技〔鍼尖転移法〕
- 32 他者の体への刺鍼〔背部〕
- 33 他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
- 34 鍼と灸を合わせたの施術〔伏臥位：下肢〕
- 35 鍼と灸を合わせたの施術〔仰臥位〕
- 36 鍼と灸を合わせたの施術〔仰臥位〕
- 37 鍼と灸を合わせたの施術〔仰臥位〕
- 38 鍼と灸を合わせたの施術〔仰臥位・伏臥位〕
- 39 灸と鍼を合わせたの施術〔仰臥位・伏臥位〕
- 40 試験

- 41 試験
- 42 基礎練習の復習
- 43 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
- 44 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
- 45 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
- 46 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]
- 47 鍼と灸を合わせたの施術 [仰臥位・伏臥位]

その他の事項

【共通】

<試験成績> 55% (試験合格を以って55%を加算する)

<出席点> 10% (1回欠席につき2点減点)

<平常点> 35%

【動画授業の場合】

<出席条件> : 動画授業をすべて視聴した場合、出席とみなす

<評価> : 授業動画の内容は通学時の提出物・実技試験に反映する

【通学授業の場合】

[提出物30%] 提出率 : 100~90% (30点) 89~80% (20点) 79~70% (10点) 69~60% (5点) 59%以下 (0点)

[その他5%] 以下の内容、1回チェックにつき1点減点とする。

○実習着・上履き : 清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

○身だしなみ : 別紙(実技実習に関する身だしなみルール)に準ずる。

○授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

・鍼の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術ですから毎日、練習の習慣を付け、まずは1年間毎日練習をしてください。

・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	3	必要時間数	90
担当教員	棟居 清峰		
授業形態	実 習	教 室	第1実技室
授業目的	臨床において、広く行われている灸法である知熱灸と透熱灸を、施術において用いることができるようにすることが本授業の目的である。知熱灸と透熱灸という灸法の手順を理解し、灸の基礎的な操作を学習する。		
教科書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第2版、医道の日本社、1992年		

具体的な到達目標	
目標1	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髪・爪）を整えることができる。
目標2	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確にできること。
目標3	安全に施灸することができるよう施灸の手順が正確にできること。
目標4	散艾から指定された大きさの艾炷を作成することができること。
目標5	作成した艾炷に安全に着火することができ、線香を安全に扱えること。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	55%（試験合格を以って55%を加算する）		55%（試験合格を以って55%を加算する）
平常点	35%	算出方法 「その他」に記載	35%
出席点	10%	算出方法 「その他」に記載	10%
その他	算出方法		算出方法
試験日	通学再開後に設定する		通学再開後に設定する

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	はり師きゅう師免許取得後、鍼灸院にて9年間の実務経験あり。 教員養成施設付属治療所にて2年間、本校附属治療所にて10年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に施灸するための基礎実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション [シラバスの確認・モグサの確認・道具の準備・身だしなみ]	
2	お灸の概要、施灸の練習方法、艾炷を捻る指の動きの練習	
3	反復練習	
4	米粒大艾炷の作成 [フェルト]・実技室の使い方	
5	米粒大艾炷の作成 [板]	

- 6 線香の扱い方、艾炷への着火、米粒大艾炷の作成 [板]
- 7 反復練習
- 8 灸療リングの使い方、米粒大艾炷の作成 [紙]
- 9 反復練習
- 10 米粒大艾炷の作成 [竹]
- 11 反復練習・もぐさ作り
- 12 人体への施灸手順、知熱灸の方法 [板の上での練習]
- 13 自身の体への施灸 [失眠]
- 14 自身の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 15 自身の体への施灸 [下腿]
- 16 他者の体への施灸 [失眠]、ベッド操作、タオルの扱い、声掛け
- 17 他者の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 18 他者の体への施灸 [下腿]
- 19 艾炷を捻る指の動き、艾炷の大きさ、着火など施灸動作一連の流れの確認
- 20 試験
- 21 試験
- 22 半米粒大の艾炷作成 [板]
- 23 透熱灸の方法 [板の上での練習]、自身の体への施灸 [失眠]
- 24 自身の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 25 他者の体への施灸 [失眠]
- 26 他者の体への施灸 [失眠・湧泉]
- 27 隔物灸
- 28 仰臥位と伏臥位の施灸、米粒大・半米粒大、知熱灸・透熱灸の使い分け
- 29 他者の体への施灸 [腰部]
- 30 他者の体への施灸 [背部]
- 31 他者の体への施灸 [上肢]
- 32 他者の体への施灸 [腹部]
- 33 箱灸
- 34 他者の体への施灸 [腰背部]
- 35 他者の体への施灸 [腹部]
- 36 灸と鍼の施術 [仰臥位]
- 37 灸と鍼の施術 [仰臥位]
- 38 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]
- 39 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]
- 40 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]

- 41 基礎練習の復習
- 42 棒灸・台座灸
- 43 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]
- 44 試験
- 45 試験
- 46 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]
- 47 灸と鍼の施術 [仰臥位・伏臥位]

その他の事項

【共通】

<試験成績> 55% (試験合格を以って 55%を加算する)

<出席点> 10% (1回欠席につき2点減点)

<平常点> 35%

【動画授業の場合】

<出席条件> : 動画授業をすべて視聴した場合、出席とみなす

<評価> : 授業動画の内容は通学時の提出物・実技試験に反映する

【通学授業の場合】

[提出物 30%] 提出率 : 100~90% (30点) 89~80% (20点) 79~70% (10点) 69~60% (5点) 59%以下 (0点)

[その他 5%] 以下の内容、1回チェックにつき1点減点とする。

○実習着・上履き : 清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

○身だしなみ : 別紙 (実技実習に関する身だしなみルール) に準ずる。

○授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

・灸の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術ですから毎日、練習の習慣を付け、まずは1年間毎日練習をしてください。

・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。